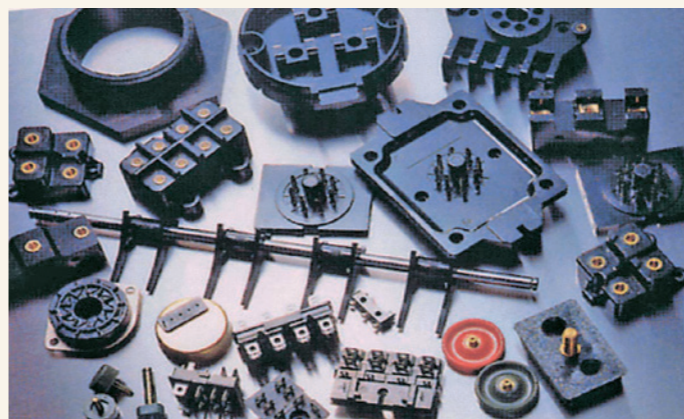


キラッとひかる
企業の知恵を
ご紹介



技術と発想の革新で 精密成形加工のトップランナーを目指す



プラスチックパーツ。金属が樹脂と一体となっているのが「インサート成形品」。

素材、工法、精度を組み合わせ 世の中になかったモノづくりを実現

創業以来、どこにでもある汎用品ではなく、少量でも難易度が高く、特徴のあるモノづくりを追求してきた。「コアとなるのは、素材、工法、精度の組み合わせ」と市川克一社長。取り扱いが難しいが、電気的特性や耐熱性に優れ、一度熱を加えると固まり再加熱しても溶けない熱硬化性プラスチックにいち早く注目。樹脂と金属などの他のパーツを最初から同時に組み込んで成形していくインサート技術によって、後で組み込むのに比べて工程を効率化でき、精度の高い成形加工を可能にした。数



代表取締役社長の市川克一さん

ミヤコテック株式会社

代表者/市川 克一
住 所/京都市伏見区下鳥羽但馬町169
TEL / 075-602-1331
URL / <http://www.miyakotec.co.jp/>
事業内容/精密樹脂成形・金型加工、
環境対応型発泡体生産、
装置・機器等設計製作

で、1週間の短納期を実現。製品のライフサイクルがどんどん短くなる中、モノづくりの前段階となる開発支援にまで踏み込むことで、試作から量産まで一貫して引き受けられることができるようになった。

多能工の技術と知恵を生かし 新事業創出でニーズに応える

社会ニーズに合わせて、新しい技術、サービスを次々と生み出してきた。発泡体製造事業もその一つだが、「他社と同じことをしても意味がありません」と市川さん。リサイクル素材の古紙やでんぶんなどを主原料に、水蒸気の圧力で押し出し成形する

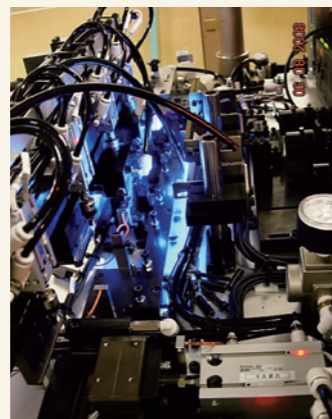
認定・評価制度にチャレンジ！ 公的機関の活用で商機を拡大

今年2月、京都府「知恵の経営」実践モデル企業に認証された。これまでも、国や京都府、京都市などのさまざまな認定・評価制度にチャレンジしてきた。厳しい環境の中で、座しているだけでは仕事は生まれにくい。「第三者機関に認めてもらうことで、対外的な評価を高めることが

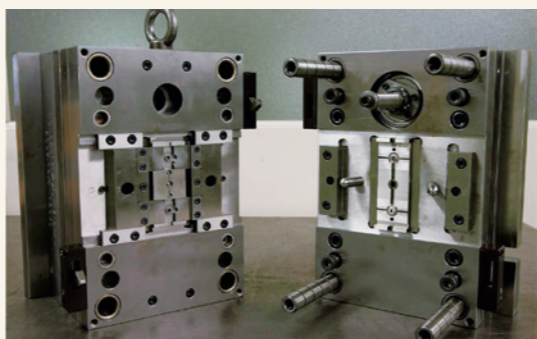
できました」と市川さん。補助金制度の活用による新事業・新技術の開発はもちろんだが、メディアなどにも取り上げられる機会が増え、従業員のモチベーションも高まったという。既存のルールや常識を打ち破り、変革に挑み続けるミヤコテック。樹脂成形・金型加工のインベーターとして、世の中のモノづくりを支える画期的なアイデアが、そこで芽吹いている。



粒型の緩衝剤をハート型にカットした商品。ファンシーグッズとしての需要を掘り起している。



JES事業部で開発した装置。顧客ニーズに沿ってオーダーメイドで製作している。



金型ベースパーツと交換可能な形状パーツ

まったく新しい発泡体を開発。従来の石油系ウレタン素材に代わる環境に配慮したグリーン製品として、緩衝材のほか、ファンシーグッズなどへと需要の幅を広げている。また、JES事業部では、これまで培ってきた治具(J)・エレクトロニック(S)・装置(S)のノウハウを生かし、お客様の生産ラインのさまざまな悩みに応えてオーダーメイドの自動化装置を開発するソリューション事業を展開。一品一様の受注だが、例えば基盤の切削や配線を自動化する技術を開発することで、次は品質検査をもっと効率化したい…という埋もれたニーズを引き出すことにつながり、ビジネスチャンスが飛躍的に拡大しているという。現在では全体売上の1割を占める事業に成長した。こうした新しい試みを支えているのが、複数の技術を身に付けた多能工を中心とした熟練の職人たちだ。2年前、京田辺市に多能工を育成する中核工場を設立。樹脂成形業界で初めて京都府「現代の名工」に選ばれた職人がリーダーとなって、金型加工はもちろんだが、樹脂成形、材料開発などモノづくりに関わる技術の伝承、知識の共有・標準化を行っている。「学びの場を増やし、一人ひとりの感性を磨くことで、いろんなアイデアが生まれてきます」と市川さんは話す。

解説

知恵のポイント

知恵を掛け合わせる土壌づくりで 新たな技術開発と販路開拓

カマボコをそのまま揚げるのではなく、事前にカマボコの中にゴボウを包んで揚げる、まさに「ごぼ天」の発想で生まれたのがミヤコテックのインサート成形技術です。「成形、金型、素材…、いろんな知恵を掛け合わせることで、お客様のニーズに応えるアイデアが湧いてくる」と市川社長。あらゆる技術に精通した多能工が若手従業員にOJTで技術伝承を行っているほか、現場での改善提案制度や目標管理制度を導入して、一人ひとりのスキル向上とモチベーション維持に努めています。始業から1時間は電話取り次ぎを控えて業務に専念する「集中タイム」の導入や、部門や部署の枠組みを超えた意見交換の場を作るなど、柔軟で風通しの良い組織体制・運営がミヤコテックの持ち味です。

こうした現場中心の取り組みの中から、新しい製品開発、販路開拓のシーズが生まれています。例えば、発泡体といえば緩衝剤が使い道のメインでしたが、女性従業員の「ハート型にカットして、アクセサリとして使ったら面白い!」という一言で、ファンシーグッズとしての需要を掘り起こすことができました。斬新なアイデアとそれを実現する技術力で、ビジネスチャンスを広げています。

応援します! 経営革新・知恵の経営に取り組む
企業のご相談にお応えします。

相談 無料 TEL: 075-212-6470
(中小企業経営支援センター 知恵産業推進室)